

空手部



船越義珍初代師範(1868~1957)。松濤館流開祖。

空手部初代部長(大正13年～昭和20年)故粕谷眞洋先生。慶應義塾空手部を創設。自らも松濤館流船越義珍翁の門下に入り有段者(2段)となる。空手を人間形成の一環となし、学校教育に取り入れていく礎を築いた最大功労者である。慶應応援歌も多数作詞。



前々部長、故島谷英郎先生
(昭和20年～45年)。



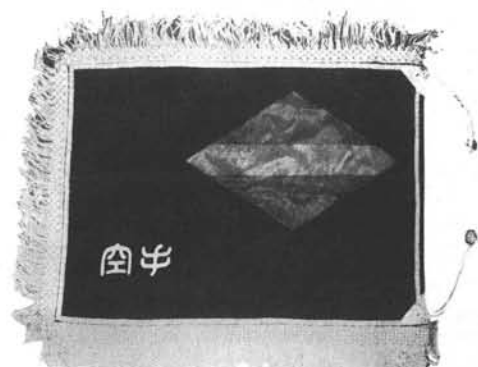
前部長、山崎照雄先生
(昭和45年～60年)。



部長、安東伸介先生
(昭和60年～)。



1928(昭和3年)・5 唐手研究会から空手部まで日本空手道発祥に役立った最初の道場。(旧物置、三田綱町グラウンド西南隅)。



空手部、部旗。

小幡功前師範(1903～1976)。松濤館流開祖、船越義珍先生の高弟として活躍。全日本学生空手道連盟発足に伴い、初代理事長に就任。



1932(昭和7年)・10・23 体育会入会記念秋季大会、三田柔道場にて。同年の10月15日の創立記念日に体育会入会決定の朗報がもたらされ、その興奮が未ださめやらぬ大会であった。

1943(昭和18年)・10・15 闘計会。今や体育会でも有名な恒例行事となった闘計会。毎年、創立記念日に巨大釜に何でも入れて暗闇の中で食べるといったもの。当時はその後、全員が裸となって踊りまわった。



1952(昭和27年)・夏 座禅。戦後第1回の北鎌倉・円覚寺での座禅。中央は朝比奈宗源老師。



1965(昭和40年)・6・6 初優勝。試合制度が始まって以来の初優勝。(第8回関東大会)

1951(昭和26年)・10 蹴りをういた組手。船越義珍師範の前で蹴りの組手をする高木(左)と村田(右)。高木房次郎は世界最初の9段を許された。



1967(昭和42年)・7・10 逆手を取る応用組手。伊藤俊太郎(左)は本塾空手部が生んだ不世出の名人であり、日本空手界にも広くその存在知られている。他の追随を許さぬその空手は幾多の逸話を生み出している。

1955(昭和30年) 女子部員による試し割り。当時、アサヒグラフに「大和ますら女」という特集記事で紹介されて反響を呼んだ写真の一枚である。(朝日新聞社提供)



1966(昭和41年) 船越義珍先生記念碑。慶應〇日を中心となり、早・拓・法大などが松清同門会を結成。北鎌倉の円覚寺に先生の記念碑を建立。先生の教え「空手に先手なし」を円覚寺・朝比奈管長により揮毫。



1977(昭和52年)・4・1 木曜会。〇日間の親睦と健康維持を目的に、来る者拒まず、去る者追わず、会則なしが原則。80才を越える長老先輩から若手に至るまで一緒に汗を流し、酒で喉を潤すのが楽しみ。すでに14年間、640回。

1922・5・7 文部省主催による第1回体育展覧会が東京お茶の水で開催され、沖縄尚武会会長の富名腰義珍先生が唐手術の説明のために上京。本州における最初の空手演武を行う。

1924・10・15 慶應義塾大学粕谷眞洋教授は空手が護身術を兼ねた最上の体育であり、武道であることを知り、自ら富名腰翁の門下生となり空手の研鑽を積む。さらに船越義珍先生を師範に迎え、学生に勧めて世界最初の唐手研究会である慶應義塾唐手研究会を創立。唐手は同研究会の発展と共に普及発達することになる。粕谷眞洋教授初代部長就任。

1926・10・24 第1回進級試験で小幡功をはじめ5名が有段者となる。

1928・5・3 綱町グラウンド隣の物置を学校より借用、道場に改修する。／7・19 初の夏合宿を千葉県館山市で行う(11日間、参加人員15名)。

1929・1・14 第1回寒稽古を行う(2週間、参加者25名、精勤者22名)。／4・15 会員下川五郎の発案により富名腰師範が円覚寺管長亮堂老師の賛同を得て、従来の唐手を空手と改める。さらに精神的深みを求めて唐手術を空手道と改称し、新たな一歩を踏みだす。この後、唐手は空手として世の中に広まっていった。同時に、慶應義塾唐手研究会を慶應義塾空手研究会と改称する。

1930・8・31 第1回闘計会を開催。／11・9 第1回秋季大会を開催(出席者48名)。／11・27 会報「拳」第1号発刊。

1932・2・3 慶應義塾体育会塾内対抗競技部空手会となる。粕谷眞洋教授作詩による「空手の歌」(部歌)完成。／10・15 体育会入会決定。／10・23 体育会入会と三田空手会発会の祝賀会を兼ね秋季大会を開催。

1933・4・11 幼年組(普通部・商工学校)空手部新設。

1934・5・5 空手部新道場が綱町グラウンドに落成。／5・13 第1回対早大交歓稽古。この頃部員数は増大して200名を越す。

1936・11・7 大日本学生空手道連盟発会式。

1937・5・6 日吉新道場開場。

1939・10・1 第1回夜行軍(日吉-稲田登戸-高幡)。空手部創立以来初めての4段が伊藤俊太郎によって実現。

1941 夜行軍を100キロ行軍とする(三田-小田原間)。

1945・11 島谷英郎先生2代目部長就任。

1947・4 戦後初の早慶交歓稽古。／8 戦後第1回夏合宿(山中山荘にて。参加32名)。／11 富名腰師範帰京歓迎演武会開催。(早大にて)

1951・5・27 日吉娘谷道場落成。

1952・11・19 世界初の試合形式による早慶戦を行う。塾女子高に12人の空手部員誕生。



1986(昭和61年)・6・15 関東医科歯科空手道リーグ個人戦で佐藤道夫優勝(前列中央)、若月肇準優勝(前列左)。



1953 慶應OB小幡功がアメリカ空軍の招聘で早大OB渡部氏などと共に空手道普及のため渡米。／6 船越師範渡来 30 周年記念演武会開催(神田共立講堂にて)。

1955・11・28 関西三田空手会発足。

1957・4・26 船越義珍師範逝去。／11・30 第1回全日本大学空手選手権において準優勝。慶應2-3明治、両国国際スタジアムにて。この年、全日本学生空手道連盟発足に伴い、OB小幡功が初代理事長に就任。同伊藤俊太郎、高木房次郎は理事に就任。

1958・4・17 日吉新道場落成。／5・13 第1回関東大学空手選手権、準優勝。／10・11 工学部空手道場落成。(武蔵小金井)／11・3 第2回全日本大学空手選手権、準優勝。

1959・5・17 第3回全日本大会3位。

1961 信濃町に医学部空手同好会結成。／11・5 全日本大会4位。

1962・11・11 全日本大会3位。

1963・6・4 関東大会4位。OB吉和田哲雄が全日本学生空手道連盟事務局長就任。／9 医学部道場落成(信濃町)。

1965・6・6 第8回関東大学空手選手権、初優勝。慶應3-2水産大、主将丸岡捷彦。／10・10 第1回東日本大学空手選手権、準優勝。／11・3 全日本大会準々決勝進出。主将丸岡が全日本学生選抜5名に選ばれ、渡米。学生軍の牽引車として重責を果たす。医学部同好会が体育会公認団体となる。

1966・5・5 第2回東日本大学空手選手権、初優勝。慶應2-1拓大、主将杉田成道。／11・20 全日本大会5回戦進出。OB望月康彦、全日本学生空手道連盟事務局長就任。塾OB等が中心となり、松濤同門会を結成。

1967・2 アメリカ選手団初来日(団長:早大OB大島勘氏)。三田で交歓稽古を行う。／5・7 東日本大会4位。／10・8 関東大会4位。

1968・5・4 東日本大会、準優勝。／10・6 関東大会準々決勝進出。／12・1 鎌倉円覚寺境内で船越義珍先生記念碑除幕式(松濤同門会)。

1969・2・8 幼稚舎空手同好会発足。会長幼稚舎教諭OB大島継治。／10・20 三田新道場落成。／11 山崎照雄先生3代目部長就任。

1970・7・4 全日本大学空手個人選手権で和田光二が初優勝。／10・13 第1回世界空手個人選手権で和田光二が初優勝。／11・23 全日本大会準々決勝進出。

1971・6・5 東日本大会4位。全日本大学空手個人選手権で和田光二が2年連続優勝。1972・7・9 全日本個人選手権で前原博ベスト4。2代目師範に小幡功就任。

1973・11・25 全日本大会3位。

1974・5・12 東日本大会、優勝。慶應2-1日大、主将松本学。50周年記念大会挙行。



1990(平成2年)・3・16 英国遠征。ケンブリッジ大学などと交流試合を行った。体格の差をもとめず、各試合に好成績を収めた。ケンブリッジ大学にて。同空手部員との記念写真。



1991(平成3年)・3 幼稚園空手同好会。会員25名(うち女子6名)が明日の黒帯を夢みて三田道場で稽古に励んでいる。幼稚園の学習発表会での頼もしい演武。幼稚園記念館にて。



1991(平成3年)・8・24 創部67年目の夏合宿。未来に向かって常に自己に克つことを目的として猛稽古が続く。長野県斑尾高原において。主将上原弘史。



1990(平成2年)・11・3 早慶戦。日吉記念館にて。早慶戦は特に両校の大きな行事である。通算成績は慶応26勝22敗1分。



1991(平成3年)・9・7 鍬谷道場。青春の汗と涙のしみ込んだ鍬谷道場もこの年取り壊され、翌年には新道場が出来上がる。

(日吉記念館にて)。「慶應義塾体育会空手部50年史」を発行し、映画「慶應義塾の空手」を製作。

1975・8・7 グアム島へ第1回海外遠征出発。知事同席のパーティで小幡師範がテレビで「世界平和と空手道」のスピーチをする。泰藤樹三田空手会会長同行。東日本大会準々決勝進出。関東大会準々決勝進出。

1977・4・1 OB間の親睦と健康維持を目的に「木曜会」結成(信濃町医学部道場にて)。

1978・9・3 ハワイへ第2回海外遠征出発。ハワイ大学空手部と交歓稽古と試合。演武を行う。ジョージ・アリヨシ・ハワイ州知事表敬訪問。ハワイ報知新聞取材記事掲載。山崎照雄部長同行。

1980・5・5 東日本大会3位。/10・10 関東大会、準優勝。

1981・4・3 OB高木房次郎が全日本空手

道連盟専務理事就任。/11・27 OB高木房次郎世界空手道連合の事務総長就任。

1982・5・5 東日本大会3位。/11・14 全日本大会4位。

1985・6・5 安東伸介先生4代目部長就任。/11・24 全日本大会準々決勝進出。

1986 関東医科歯科リーグ団体戦優勝。同個人戦も佐藤道夫が2連覇。

1987 関東医科歯科リーグ団体戦優勝。東日本医科学生総合体育大会個人戦で内田厚優勝。/8・1 ケンブリッジ大学空手部来日(10名)。塾空手部と尾瀬片品において合同夏合宿を行う。/8・23 第1回親善試合を日吉にて行う。

1990・3・9 イギリス遠征に出発。ケンブリッジ大学、マンチェスター大学等で試合。/8・16 ケンブリッジ大学空手部来日(8名)。長野菅平の夏合宿に特別参加。/11・3 早慶戦通算成績 26勝 22敗 1分。

●歴代部長名：粕谷真洋先生、島谷英郎先生、山崎照雄先生、安東伸介先生

●歴代三田空手会会長名：松野喜内、小幡功、明石彰、辻岡秀雄、泰藤樹、菅真司

●歴代監督名：高木房次郎、岩本明義、清田隆彦、村田和夫、真下欽一、斉藤紘二、中野喜一郎、和田定士、鈴木博雄、池田充、木津迪郎、奈蔵稔久、蓮池敬一郎、真鍋和弘

●慶應空手普及のため道場を開いているOB
山口城蹟、藤原康生、真下欽一、安東浩介、門松平、和田定士、門松善郎、川崎暢、林原健、西谷賢、桑原功次